



「まちとくらしのトライアルコンペ」最優秀賞ほか各賞を決定 ～URまちとくらしのミュージアム開館記念企画～

独立行政法人都市再生機構（以下、UR都市機構）は、まちや団地に「新たな風景」をつくることを目的に、「まちとくらしのトライアルコンペ」（後援：東京都北区）（以下、当コンペ）を実施し、このたび最優秀賞ほか各賞を決定しました。

当コンペは、東京都北区赤羽台のURまちとくらしのミュージアム（以下、ミュージアム）の屋外等を実験場として、新たな風景をつくり出すことを目的に、デザインやビジネスなどのアイデアを昨年12月～1月に募りました。84件の応募アイデアから書類選考等による一次審査を通過した9件を対象に、3月16日（土）にミュージアムで、プレゼンテーション・審査員による審査等を行い、最優秀賞に「赤羽台農耕団地」を選定したほか、優秀賞3件と審査員賞5件などを決定しました。（※受賞作品については、別紙をご覧ください）

今後、受賞者と調整の上、令和6年度に受賞案の試行実施を目指します。また、5月以降にミュージアムで（仮称）企画発表会も予定しています。

最優秀賞 『赤羽台農耕団地』



応募者：株式会社 キタバ・ランドスケープ東京事務所

※応募者名はエントリーシートの個人名・団体名より記載

【報道機関のお問い合わせ先】

UR都市機構 技術・コスト管理部 企画課 電話：045-650-0705

UR都市機構 広報室 広報課 電話：045-650-0887

【最優秀賞以外の受賞作品一覧（応募受付順）】

■ 当コンペの作品は明日以降、下記公式サイトで閲覧可能です。

URL: https://akabanemuseum.ur-net.go.jp/special/trial_competition/



優秀賞（3件）

緑と環境ミュージアム
No.24

生活の気配が溢れる緑豊かな未来へ
みどりの「はっぴん」づくり
みどりの「はっぴん」づくり
みどりの「はっぴん」づくり

Let's enjoy! SlackLife
No.54

スラックラインを通して地域交流を回り、地域活性化に繋げる！！
KIRIBORN スラックラインチーム

スラックラインとは
なぜスラックライン？
コンペに応募した動機
使用機材

企画案詳細

企画名：『緑と環境ミュージアム』
応募者：手づくり建築工作舎

企画名：『Let's enjoy! SlackLife』
応募者：Let's enjoy! SlackLife

URまちとくらし図書館
No.58

暮らしのヒント、静かな時間、まちとくらしの図書館をつくる

企画案
多言語事例
企画のイデオロギ
実現性
地域性

URまちとくらし図書館

企画名：『URまちとくらし図書館』
応募者：株式会社ひらく

審査員賞（5件）

起業家の庭
No.14

誰もが起業に楽しみを持ち、気軽に参加・支援できる場をつくる。

起業者 権 成俊

開催日、日に椅子を持ち出して、起業に関心がある人の庭やバルコニー、デスカッションを行うイベントを開催。同時に飲食店なども出店し、子供でも参加できるような楽しいお祭りにする。「起業ってどうやって始めるの？」「アイデアがあるんだけど、誰か一緒にやらない？」「自分のビジネスプランを評価してほしい」「起業に向けての準備のチェックリストがほしい」といった声に応えるべく、3か月に1回開催される。

内容 起業、創業に関心を持つ人が増えていく。しかしながら、起業家の集まりは打合せの集まり、投資家の集まりなどではない。参加のハードルが高い。オープンな場で起業家と関わりあう機会を創出する。オープンな場をつくる。参加しやすい、イベント自体も盛りだくさんにして開催できる。

集客 近隣の在住者はもちろんのこと、東洋大学、赤羽駅に近いこともあり、学生や地方からの参加を望む。近況によっては、多くの起業家やスタートアップが参加し、日本を代表するインキュベーション施設になることを目指す。

資金 オープンにイベント開催できる場所。大学や駅に近い立地。将来の企業のインキュベーション施設に作りうる施設がある。オープンな場をつくる。

課題 直接収益は少なく、スポンサーが必要。クラウドファンディングも。

企画名：『起業家の庭』
応募者：権 成俊

AKABANEDAI MAPPING Project

街の魅力を体験・共有する手のひらサイズの地図コミュニケーションツールを、赤羽町のみんなで作る

プロセス

- 1 広場を多世代でオモシロく使うには？
- 2 街の私のおとておきをシェアしたい！
- 3 もしものとき、に備え...

目的 赤羽町の魅力をより豊かに楽しむ。街の魅力を共有し、街の活性化に貢献する。街の魅力を共有し、街の活性化に貢献する。

実施内容 2024年春に開催される「AKABANEDAI MAPPING Project」を開催し、街の魅力を共有し、街の活性化に貢献する。

実施場所 赤羽町内各所

対象者 赤羽町民、関係者、関係者

【実施内容】
ワークショップ企画/運営
マップデザイン
マップ印刷/配布
マップ配布/販売
（参加者の配布/イベントでの販売など）

neighborGood
地域を元気にする
みんなの力で街を元気にする

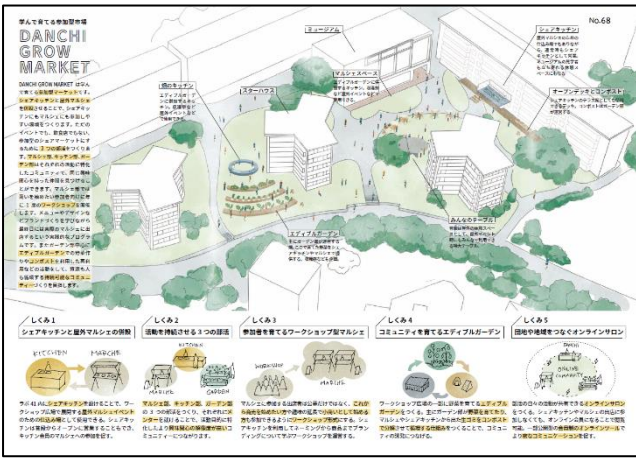
企画名：『AKABANEDAI MAPPING Project』
応募者：neighborGood



企画名：『まちとくらしの文化祭@赤羽台』
 応募者：佐野 雄二



企画名：『パブリックラボ』
 応募者：VUILD 株式会社



企画名：『DANCHI GROW MARKET』
 応募者：富士見台トンネル

入選（6件）

一次審査を通過しなかった作品の中から、優秀な作品を入選として選定することとし、下記6件を決定しました。

企画名	応募者
赤羽ワダンス	Amazons
背比べレビュー書店	Rabbit Storys
おたすけ！団地ラジオ	長島 幸子
ウチソト	特定非営利活動法人リデザインマネジメント研究所
のんびりまったりリスターハウス★ベンチ	矢島 美穂
芝生でストリートピアノ&箏♪	NTM(ノーストーカー音楽まちづくり)

審査委員長による講評（抜粋）

馬場正尊（オープン・エー代表取締役/東北芸術工科大学教授）



プレゼン・2次審査 (3/16)

- ・学生からプロまで、バリエーションに富んだ応募案の数々で審査は拮抗しました。
- ・審査のポイントとなったのはふたつ。ひとつは、この場所、この人でなければならないという必然性、もうひとつは、今後URが行うであろう未来の事業において横展開できそうであるという汎用性です。
- ・最終的には、前者に重きをおくことが、このミュージアムでコンペを開催した意味があるだろうという結論にいたり、各賞、特に最優秀賞を選定しました。

■ミュージアム概要

「URまちとくらしのミュージアム」は、我が国の住まいとまちづくりを対象とした「都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する情報発信施設」です。スターハウス等保存住棟4棟に新たな展示施設「ミュージアム棟」を加えた計5棟、さらに屋外空間からなるUR都市機構の企業ミュージアムになります。(令和5年9月15日開館)

ミュージアム棟では、我が国の鉄筋コンクリート造集合住宅の先駆けとなった、同潤会代官山アパートを始めとする4団地計6戸の「復元住戸」や壁床4面スクリーン投影による映像展示、模型やパネルを用いて都市と集合住宅の暮らしの歴史や変遷を紹介しています。

登録有形文化財でもあるスターハウス等保存住棟4棟では、これからの暮らしの提案を行うほか、ストック社会に対応した改修技術等の実証フィールドとして活用します。当ミュージアムは、新たな暮らし方を探求し、トライアルする「まちづくりの実践場」として活動を展開します。



ミュージアム全景(南側)



ミュージアム棟

■ミュージアム棟の公開概要

- 1. 開館時間 : 10:00~17:00
- 2. 休館日 : 水曜日・日曜日・祝日(年末年始・臨時休館あり)
- 2. 見学方法 : 説明員付き館内ツアー形式(1回最大20名程度)のご案内
1日3回(10:00~ / 13:00~ / 15:00~)
※復元住戸等、一部施設では車いす等での乗り込みが困難な箇所があります。
- 3. 申込方法 : 公式WEBサイトでの事前予約制/入場無料
- 4. アクセス : JR「赤羽」駅西口より徒歩8分
- 5. 住所 : 東京都北区赤羽台一丁目4-50
- 6. 電話番号 : TEL. 03-3905-7550
- 7. URL : <https://akabanemuseum.ur-net.go.jp>



UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>

街に、ルネッサンス

UR都市機構

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

UR都市機構は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。